

令和7年度 部・分掌部評価シート（知的障害教育部門 小学部）

4:十分達成できた 3:おおむね達成できた 2:あまり達成できなかった 1:達成できなかった

今年度の重点経営目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果(○)と課題(▲)
<p>①遊びや学習、生活体験を積み重ね、興味関心を広げるとともに、集団生活での簡単な決まりを守ろうとする態度を養う。</p> <p>-----</p> <p>学校努力目標 (1)―② (2)―⑦⑧</p>	<p>・児童が興味関心を持って取り組めるような遊びや学習を行い、児童が心地よく感じることや好きなことを見つけられるようにする。</p> <p>・集団生活での決まりを明確にし児童が分かるように視覚的支援を使いながら繰り返し指導する。決まりは児童の実態に応じて提示する。</p> <p>・校外学習や生活単元学習、今年度から取り扱う保健の授業において、6年間の系統性を見直しを行うために、授業を行いながら児童に応じた学習か検討していく。</p>	3	<p>○校外学習において、校外での学習の流れやルールなどを繰り返し、視覚的に確認したことでよりよい態度を身に付けることができた児童が多くいた。</p> <p>○具体的に褒められることで児童は自信をもって取り組めるようになった。また、失敗から学ぶことも行っていたい。</p> <p>○日常生活に般化できるようにという取組、工夫により、児童が学習で学んだことを日常生活に般化できた様子も見られた。</p> <p>○生活科部会のメンバーで6年間の系統性を考えた生活科、生活単元学習の学習内容についての検討をした。来年度、実施しながら検討を確認していく。</p>
<p>②児童の発達段階に応じた教科指導の基礎基本の定着及び自立活動の指導の充実に努める。</p> <p>-----</p> <p>学校努力目標 (2)―①②⑧</p>	<p>・単元別指導計画表を活用し、目標や手立てなどを共通理解しながら一貫した授業を行う。また、場の設定や手立ての検討、同じ視点での評価等を行う</p> <p>・学習の場が同じでも、児童一人一人の課題に応じた自立活動が実施できるよう、自立活動の視点に沿った実態把握を丁寧に行い、どのような力を身に付けたいか検討する。</p> <p>・体力や姿勢の保持の向上を目指し、身体を動かす機会を多くとったり、身体を上手に動かすことができるように段階的な学習を計画したりする。</p>	3	<p>○単元別指導計画を作成し、共通理解して指導にあたることができた。その都度反省もを行い、次の授業改善にもつなげられた。今後、次年度の教育課程にもつなげていきたい。</p> <p>○自立活動の授業に担任外やわかすの教員に指導に入ってもらっている。また、自立活動の研究授業が何本かあったことで、あたご小学部における自立活動を考える機会が増えており、内容も充実してきた。また、個の実態や課題に応じた指導が実践できた。</p> <p>○教師の支援や促しを減らしていくことで、児童ができる動きが増えたり、自主的に取り組めるようになったりしている。</p>
<p>③様々な学習の中で、主体的に取り組む力や、自分がしたいことを自ら選んだり意思決定をしたりする力を育む。</p> <p>-----</p> <p>学校努力目標 (1)―① (2)―⑤⑦</p>	<p>・児童の興味を引き出す学習を行い児童が自ら「やってみたい」と思うような気持ちを引き出す。</p> <p>・児童の動きや言葉を待ったり、児童の意思表出を大事にしたりする。</p> <p>・児童が何らかの形で周りの人に自分の気持ちを伝えるように様々なコミュニケーション手段（言葉や絵カード、身振り等）を身に付けられるように、また選択肢を提示したりする。児童がやりたいことを自分で決める機会を多く設ける。</p>	3	<p>○自己選択、自己決定を児童に促す機会や人とのやり取りをする機会を多く設定することで、写真、絵カード、言葉など児童に合った方法で、意思や要求を伝えることができた児童が多くいた。繰り返し、徹底した指導の成果が見られている。</p> <p>▲感情の理解、行動の調整、自己理解等の継続した指導、児童同士のコミュニケーションの取り方など今後も繰り返し取り組んでいきたい。</p>

上記記載外で、次年度に向けた改善策等

・教科学習の充実を図っていききたい（生活と生活単元学習の時数、国語、算数の時数、日常生活の指導の時数を検討していききたい）。

令和7年度 部・分掌部評価シート（肢体不自由教育部門 小学部）

4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
<p>①周りの人や物への関心を高め、豊かに関わる力を育む。</p> <p>-----</p> <p>学校努力目標（2）－9 （3）－2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の実態に応じて人や物に関心がもてるような学習内容や指導方法、教材の工夫に努め、児童が自ら関わり、相手を思いやる気持ちの素地を育むようにする。</li> <li>・学級間の合同学習やあたご部門との学年交流、学校間交流や居住地校交流による交流及び共同学習など、関わる対象の幅を広げ、児童同士の関わり合いができるように努める。</li> </ul>	4	<p>○授業の中で友達の活動している様子を見せる場面を多く設定したり、好きな色や音を手掛かりにできるような教材を提示したりすることで、友達や物への興味の幅を広げることができた。</p> <p>○学校間交流や学年活動、居住地校交流を通して、学級以外の友達と関わる機会が増え、慣れない環境でも自信をもって発表したり、自分から相手校の友達に声を掛けたりする姿が見られた。</p>
<p>②遊びや学習、生活経験を積み重ね、興味関心を広げるとともに、集団生活での簡単な決まりを守ろうとする態度を養う。</p> <p>-----</p> <p>学校努力目標（2）－7 （2）－10</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア形成のための指導内容を踏まえ、人と関わる中で自分を知り、主体的に学習に取り組むことができるようにするために、指導方法(子供の表出を待つ場面や声掛け等)の工夫やTTの役割の確認をする。</li> <li>・校外学習を通して、地域の人々とのつながりを持ち、活動を通して簡単な決まりや役割を知り、社会への興味関心を広げよう努める。</li> </ul>	4	<p>○子供たちの表出を待つ場面や選択する場面を継続して設定することで、表出の少なかった児童も、視線や表情、手を伸ばすなど更に主体的に学習に取り組むことができた。</p> <p>○修学旅行の事前学習や当日の活動で、友達の様子や発言から自分の考えを広げたり、集団を意識した行動を心掛けて約束を守って活動したりすることができた。</p>
<p>③児童の発達段階に応じた教科指導の基礎基本の定着及び自立活動の充実に努める。</p> <p>-----</p> <p>学校努力目標（2）－1 （2）－2 （2）－3 （2）－4</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画や単元別指導計画表を活用し、各教科及び自立活動の指導において教師間で児童の目標や指導内容、手立て、評価等を共有し指導の一貫性を図る。</li> <li>・目標検討会や校内研究を通して自立活動の指導力向上を図る。</li> <li>・児童の実態や課題から授業のねらいを明確にし、授業で身に付けさせたい力、身に付けさせるための手立てや教材の工夫などを、研究授業及び授業研究会を通して出し合い、教員一人一人が授業力向上に努めていく。</li> <li>・一人一台端末を効果的に活用した授業の展開を工夫し、教科の学びを深める。</li> </ul>	3	<p>○それぞれの課題や特性に応じた学習活動の工夫を行うことで、集中して主体的に学習に取り組みさせることができた。</p> <p>○担任間で個々の目標や手立てを確認したり、授業後に内容について再度検討し、改善したりすることができた。</p> <p>○総合の授業で調べた「平和と戦争」についての発表で、プレゼンテーションアプリを活用して、聞く人がわかりやすいように文字数を少なくする、写真を付けるなどの工夫を考えながらまとめることができた。</p>

・準ずる教育、知的代替の教育における教科指導について、教職員のさらなる指導力の向上を図っていきたい。

令和7年度 部・分掌部評価シート（知的障害教育部門 中学部）

4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
<p>① 集団活動を通して、他者からの働きかけを受け入れたり、相手を思いやったりする態度を育てる。</p> <p>学校努力目標 (1) —① (2) —⑤</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人一人がお互いに認め合い、助け合い、学び合う場と機会を意図的に設ける。</li> <li>学校内外の様々な人や物事に会う体験活動を充実させる。</li> </ul>	3	<p>○学習内容に合わせて細かく指導・支援の方法や環境調整を行うことで、集団を意識し、友達をリードする姿が見られた。また、周囲の状況を見て率先的に友達の手助けをしたり、代行したりできるようになった。</p> <p>○友達との関わり方、思いやりのある話し方等を指導することで、適切な関わり方が分かり、友達同士の関わりが見られるようになった。</p>
<p>② 日常生活の様々な場面において、自分でできることを増やし、継続して取り組む力を育てる。</p> <p>学校努力目標 (2) —①②</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分なりの考えをもって、自ら主体的に判断し行動することができるようにする。</li> <li>自立心や自律性を高め、規律ある生活が継続できるように取り組む。</li> </ul>	3	<p>○行事等を通して、任された役割に責任をもって取り組ませることで、生徒が達成感を味わうとともに自信を付け、次の意欲につながった。</p> <p>○各学年、目標や約束事をその都度伝え、指導することで、話し手へ注目でき、目指すべき行動ができるようになった。</p> <p>▲身だしなみを自ら意識して整えることができるようになったが、持ち物管理、整理整頓に課題がある。</p>
<p>③ 生徒の発達段階や障害特性に応じた学習を通して、主体的に学ぼうとする態度を身に付けさせるとともに、教科指導の基礎基本の定着及び自立活動の充実に努める。</p> <p>学校努力目標 (1) —② (2) —②</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れる。</li> <li>自立活動の時間の指導と各教科等における指導との関連を図る。</li> </ul>	3	<p>○学年全体で生徒の実態把握、指導・支援の方法、個々の目標を共有し、一貫した指導を行うことで、生徒それぞれの目標達成や成長につながった。</p> <p>○気持ちのコントロールに課題のある生徒も学習に見通しをもたせ、一貫した指導を行うことで、学習に参加でき、気持ちを自らの代替手段で伝えることができるようになった。</p> <p>○自立活動の中で身に付けたことを他の学習場面や学校生活の中で般化する様子が見られた。</p>

上記記載外で、次年度に向けた改善策等

幅広い実態の生徒に対し、個々のニーズに応じた適切な指導を学部全体で共有しながら行っていく。

令和7年度 評価シート (知的障害教育部門 高等部)

今年度の 努力目標	達成に向けた 具体的方策	評価	成果 (○) と課題 (▲)
<p>①健康安全への関心を高めるとともに、進んで運動に取り組み、自ら体力向上や健康管理に努める態度を養う。</p>	<p>運動への苦手意識の軽減を図るために、楽しんで運動できる内容や方法を検討する。 食事や睡眠に関する話題を多くし、健康管理を自分でしようとする意識を高める。 筋力向上に併せて柔軟性を高めるために、休憩時間に短時間でできるストレッチに取り組みさせる。</p>	3	<p>○保護者の協力を得ながら、肥満傾向の生徒は休日などに散歩などの運動を行い、体重減少につながった。 ○体育の開始前や休み時間に、自主的にバレーボールやサッカーの練習に取り組む生徒が多く見られ、楽しんでいる様子が伝わってきた。 ○日記でのやりとりを通して、食事や睡眠などの家庭での様子を話す機会を設けて、健康管理への意識を高めさせることができた。 ▲動画視聴などで睡眠時間が短い生徒に、話を適宜行いながら、規則正しい生活を促している。 ▲10分間走では、苦手な生徒は途中歩くことが多く、声掛けや伴走が必要だった。</p>
<p>学校努力目標 (2) —①⑥</p>			
<p>②基本的な生活習慣の確立をめざし、今できることを日常生活の様々な場面でもできるようにし、自らの生活をより豊かにしようとする態度を養う。</p>	<p>身辺処理ができているところを褒めることで定着を図り、新たな挑戦を促す。 楽しみを友達と共有する時間を設定し、様々な人や刺激に接するようにすることで、興味関心の幅を広げさせる。 体験的な活動に繰り返し取り組ませることで、失敗から学ぶ積極性を育む。</p>	3	<p>○週に一回を整理整頓の日としたり、ロッカーの整理の仕方を工夫したりして、身辺処理ができるようになるような取り組みをした。 ○職員の指示や助言に対して反抗的な態度を示していた生徒が、自分の気持ちをコントロールして指示や助言を受け入れようとする姿勢が見られてきた。 ○公共交通機関の利用に慣れ、休日にも友達と遊ぶなどの様子が見られるようになった生徒がいた。 ▲「学習に適した身だしなみ」を自己判断することが難しい生徒がいた。引き続き指導が必要。 ▲決められた通学方法を守らない生徒がいた。</p>
<p>学校努力目標 (2) —⑥⑨⑩</p>			
<p>③生徒の発達段階に応じて教科学習に主体的に取り組ませるとともに、基礎基本の定着及び自立活動の指導の充実に努める。</p>	<p>「自閉症指導スタンダード」に基づいた指導や支援を行い、生徒が見通しをもって活動できるようにする。 生徒の実態を多面的な視点から把握し、長所を生かしながら全体的な成長を促す。 ICT機器を積極的に活用し、個々の実態に対応した指導支援を行う。</p>	3	<p>○時間割や予定、変更を事前に伝えることで、見通しをもって落ち着いて活動できる場面が少し増えてきた。 ○教科学習のグループについて再検討を行ったので、生徒の苦手や困り感に気付くことができた。 ○1年生のタブレットPCの導入が早まり、夏休み明けから学習や行事等で活用することができた。 ▲タブレットPCを使用する授業が増えてきたが、管理が生徒任せになり、鍵のかけ忘れなどが見られた。 ▲タブレットを活用する際に、一部の生徒が充電できていなかった。タブレットを保管庫に戻す際は、教師と一緒に確認をしていく。</p>
<p>学校努力目標 (2) —①②③ ④</p>			

上記記載外で、次年度に向けた改善策等

- ・コース制の在り方の分析・改善案検討をプロジェクトチームで取り組み始めている。

令和7年度 部・分掌部評価シート（肢体不自由教育部門 高等部）

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
<p>① 自他を尊重する態度を養うとともに、集団生活のマナーを守り、周り人と協調・協力しながら生活する態度を養う。</p> <p>学校努力目標 (1) - ① (2) - ②⑦ (3) - ②</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常の挨拶や返事、その他の場面における依頼やお礼を言う等を通して、相手を意識した言動ができる経験を積み重ね、人間関係を築いたり、社会生活に必要なマナーを身に付けさせたりすることができるようにする。</li> <li>・ 各学年や教育課程のまとまりで学習する機会を設け、生徒が相互に関わる中で協力したり、認め合ったりしながら、生徒が主体的に行動できるようにする。</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自立活動の学習を通して、相手の意見や教師の助言を受け入れながら、自らの課題を意識・改善しようとする姿も見られた。</li> <li>○ 少しずつ他者を意識したり、他者と協力したりすることができるようになってきた。今後もコミュニケーション力や人と関わる力を向上させていきたい。</li> <li>○ スイッチを押して他者に働きかける活動を増やしたことで、他者と関わろうと主体的な行動が見られた。</li> <li>▲ 対人関係に関わるトラブルが見られた。</li> </ul>
<p>② 個々の課題に主体的に取り組み自ら考え判断する力を育むとともに、これまでに身に付けた知識や技能を生かしながら課題解決に向けて努力する態度を養う。</p> <p>学校努力目標 (2) - ①②④</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習到達度チェックリスト等で生徒の実態を把握し、それに応じた目標や学習内容、手立てについて職員間で協議し、生徒がその達成に向けて自ら意識を高めながら取り組んでいけるように、学習の目標やその意義を生徒に伝え、随時振り返りや評価をしながら学習できる授業を行う。</li> <li>・ 個別の教育支援計画の目標、自立活動における課題の関連や指導目標、指導内容等について定期的に検証し、学習したことが生活、将来とどうつながるかを明確にしながら指導し、生徒に実践及び成長を感じさせ、次への学びへつなげられるようにする。</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の課題や自立活動の目標などを共有し、複数の職員で指導を積み重ねることができた。</li> <li>○ キャリア検定（アノテーション、事務アシスタント）へ意欲的に取り組み、自信をもったり、課題を把握したりできた。</li> <li>○ 単元別指導計画表を用いて、指導を行った。計画表を基に教員同士で話し合いを行い、生徒にとって学びを深められる指導の方法を考えることができた。</li> <li>○ 前期社会体験実習での経験を保護者と連携しながら、後期の社会体験実習に生かすことができた。</li> </ul>
<p>③ 自分を見つめ、自分に合った進路について考え、自己選択・自己決定する力を高めるとともに、関連機関との連携を図りながら将来の職業生活、社会生活、家庭生活を見据えた自立の力を養う。</p> <p>学校努力目標 (2) - ⑤⑦</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各生徒の進路の可能性に合わせて幅広い情報提供を行い、社会体験実習等で実践力を身に付けさせる。</li> <li>・ 生徒の進路希望に合わせて、相談支援事業所との連携をはじめ、職業安定所（ハローワーク）の登録、資格取得やキャリア検定への参加等を積極的に行う。</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 在宅ワークの実習、グループホームの利用など、卒業後の生活や働き方を具体的にイメージでき、進路意識を高めることができた。</li> <li>○ 職員間で情報共有を行い、卒業後を見据えた指導を実施できた。</li> <li>○ 進路指導部が新しい事業所を保護者に紹介、見学や実習を行うことで、進路先として保護者に具体的に考えてもらうことができた。</li> </ul>

上記記載外で、次年度に向けた改善策等

・ 進学希望者への職員の進路指導力の向上及び情報収集、対外模試の実施、大学進学後の生活に関する指導の実践などを行う。

令和7年度 部・分掌部評価シート(高等部 上五島分教室)

4:十分達成できた 3:おおむね達成できた 2:あまり達成できなかった 1:達成できなかった

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果(○)と課題(▲)
<p>①生徒の発達段階に応じて主体的に教科学習に取り組ませるとともに、基礎基本の定着及び自立活動の指導の充実に努める。</p> <p>学校努力目標(2)―②④</p>	<p>・「集団での学び」を基本として、個々の発達段階に応じた教科学習内容を実践する。</p> <p>・研修や実践を通して、教師の専門性の向上を図るとともに、生徒の障害の状態や特性などの実態を全職員で把握し、適切な目標設定、指導、評価の体制を確立する。</p>	4	<p>○研究授業をリモートで行うことで、授業研究が深まった。</p> <p>▲本校の研究授業にも参加できるとよい。</p> <p>○教育課程を2つに分けたことで、授業での「わかる」を実感し、生徒の笑顔が見られた。</p> <p>○理学療法士の研修会を通して、職員全体で自立活動の専門性を高めることができた。</p> <p>▲研修を受ける機会がほしい。</p> <p>▲学年に応じた目標の設定ができなかった。</p>
<p>②自分に合った進路について考え、自己選択・自己決定する力を高めるとともに、関連機関との連携を図りながら、進路実現を図り、将来の生活を見据えた自立する力を育成する。</p> <p>学校努力目標(2)―⑤⑦</p>	<p>・キャリア教育への取組を充実させる。(今年度より キャリア検定を上五島で開催)</p> <p>・進路選択に向け、早い段階から進路に対する意識の向上を図るとともに卒業後の生活を見据えた課題に取り組む。</p>	4	<p>○上五島地区で初めてキャリア検定を開催した。生徒たちは意欲的に練習し、挨拶をするなど働くための意識が向上した。</p> <p>○小規模校という利点を生かし、進路担当者だけでなく、分教室の教職員全員が生徒の自己選択・自己決定に向けて、それぞれの立場で生徒への指導や支援ができた。</p> <p>▲将来の生活を見据えた力をつけるには、個別に応じたアプローチの工夫が必要である。</p> <p>▲進路に対する生徒・保護者の意見と学校の考えとのすり合わせが必要なケースがある。</p>
<p>③ 自他を尊重する態度を養うとともに、上五島の地域に根ざした教育活動に取り組む。</p> <p>学校努力目標(1)―① (2)―⑩ (3)―③</p>	<p>・交流学习を通して、他校の生徒と協力して行事に取り組んだり、発言したりすることで、お互いが相手の気持ちを考え行動する力を身に付けさせる。</p> <p>・地域貢献(花壇整備、清掃活動、観光施設の装飾、寄付バザー)を通して、故郷を大切に思う気持ちを育む。</p>	3	<p>○花壇整備やスポーツ交流では、地域の方との会話が増え、楽しむ様子が見られた。また、地域貢献活動(地域清掃、有川港ターミナルの装飾)を通して地域のことを良く知り、自分の故郷について考えることができた。</p> <p>▲地域の方や生徒同士の関わりをさらに深めさせたい。</p>

上記記載以外で、次年度に向けた改善策等

- ①リモートでの本校の研修会や授業研究への参加を計画する。分掌主任と分教室の分掌部担当との情報共有をさらに円滑に行いたい。
- ①1・2・3年が1クラスで運営しているが、各学年による目標を明確にしていく。
- ②保護者向け進路研修会の開催や早い段階から島内の進路状況等の情報共有を行う。
- ③上五島高校との行事(体育祭、文化祭など)において、準備の段階から関わりを増やしていく。そのために担当職員同士の情報共有や生徒同士の関わりを増やすための支援を行う。
- ③各交流学习における目的・内容を生徒と具体的に学習する時間を確保する。

令和7年度 部・分掌部評価シート（教務部）

4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
① 学校教育目標を達成するために、教育計画の企画立案及び連絡調整を図り、効果的な教育活動の推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業計画の共通理解を図るためのツールとして単元別評価表を活用することを周知し、作成・保管を各学部で行っていく。</li> <li>・授業の評価・時数・学習内容について反省を行い、教育課程の編成に活かす。</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各部の状況に合わせて活用をしている。保管についてもこれから整理をしていく。</li> <li>○7月下旬に各部アンケート形式で授業の反省を行った。課題をもとに編成に向け、動いている。</li> <li>▲単元別指導計画の活用については各部で検討をしていく。</li> </ul>
学校努力目標（2）—①			
② 各教科等部会において、小・中・高の連携を図るとともに、各教科等の系統的な指導内容の整理、評価について各学部の実態に即した研究に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程委員会と各教科等部会が連動して教育課程の編成につながるように、教務でスケジュールや話し合いの柱を設定する。</li> <li>・各教科等部会からの検討事項を学部会で報告してもらい、教務で共通理解を図り、進捗状況を把握しておく。</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○職員アンケートをもとに教育課程編成の重点項目を割り出し、職員会議で共通理解を図った。9月より、重点項目を踏まえ、教科等部会を進めている。</li> <li>○学部会や教科ごとの話し合い等で共通理解を図っている。</li> <li>▲教科等部会で取り組む内容や進め方など、教科によってばらつきがあるとの意見もあがっているため、事前の打ち合わせ等に工夫が必要。</li> </ul>
学校努力目標（2）—⑧⑨			

上記記載外で、次年度に向けた改善策等

・教科等部会について、教務部全体で共通理解を図り、教務部が教科等部会をサポートしていくことで、取り組む内容や進め方にばらつきが出ないようにする。

## 令和7年度 部・分掌部評価シート（研究部）

4：十分達成できた    3：おおむね達成できた    2：あまり達成できなかった    1：達成できなかった

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
①部門・学部ごとの協働的な学びの機会を増やし、よりよい指導につながる校内研究を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究部員や部主事、進行役の先生方との情報共有を徹底し、必要に応じて修正や改善を行う。</li> <li>・学部を越えてグループ編成をすることで学部間の連携を図る機会を設定する。</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究部の各学部代表の先生と自立活動部と情報共有や協議しながら研究を進めることができた。</li> <li>○▲学部を越えて指導について協議する機会が少なくなっている。研究を通して話すことができたことは成果である。この機会をどう維持していくかが課題である。</li> </ul>
学校努力目標（2）－1			
②研修案内、研究授業や他部・他部門研修を行い、教職員の自主的な研修を行うことを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内外の研修について、ポータルサイト及び掲示板等で周知する。</li> <li>・校内研修について動画撮影を行い、いつでも自己研修できるようにデータの管理を行う。</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研修案内については、ポータルで周知することができた。</li> <li>○研修用動画については、研究部の外付け HD にて管理しているので必要に応じて活用してください。</li> <li>▲校内のニーズに合わせた研修の企画等について次年度取り組んでいく。</li> <li>▲研修用動画の周知及び活用に向けて情報収集、周知について徹底していきたい。</li> </ul>
学校努力目標（2）－4			

上記記載外で、次年度に向けた改善策等

- ・校内研修の企画（校内のニーズに合わせた研修内容）
- ・研修用動画、資料の収集と周知、活用に向けた取組

令和7年度 部・分掌部評価シート（生活生徒指導部）

4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
①児童生徒一人ひとりが自己を尊重しながら学校生活を送ることができるよう、いじめや問題行動などの未然防止に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ防止基本方針の年間計画に基づき、定期的に生活アンケートを実施して、状況把握を行う。</li> <li>「ありがとうの7日間運動」の活動内容について、各部の状況に応じて学習内容を検討し、年間を通して計画的に実践を進める。</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間計画に基づき、3回の学校生活アンケートを実施できた。状況を把握し、気になる案件については、各部で対応、共有を図るようにした。</li> <li>「ありがとうの7日間運動」自体があまり知られていないという状況から、HPで取り組みの様子を掲載し、保護者を含めて校外へ紹介する機会を設けた。</li> </ul>
学校努力目標（1）—①			
②児童生徒が自発的に活動し、充実した学校生活を送ることができるよう、集会や委員会活動などの児童生徒会活動や校外行事の企画運営に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童会及び生徒会の委員会活動や集会については、年間計画に基づき、部門間で連絡調整を行いながら進める。</li> <li>集会、委員会の運営や進行において、児童生徒の役割を明確にし、児童生徒が主体的に活動に取り組めるように活動内容を設定する。</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部及び各部門ともに、年間計画に基づいて運営することができた。高等部では、新たな取り組みを考えたり、自発的な会の進行や資料作成などに取り組んだりするなど、生徒の自主的な活動が見られた。部によって担当教員数に違いがあるため、部門間で連絡調整しながら進めることができた。</li> </ul>
学校努力目標（2）—⑨			

上記記載外で、次年度に向けた改善策等

「ありがとう7日間運動」では、各部の状況に応じて取り組みを進めたが、部によっては内容を検討する必要があるが出てきている。これまでの実践を踏まえ、次年度の参考になるよう、大まかな計画を作成中である。

令和7年度 部・分掌部評価シート（保健体育部）後期反省

4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
<p>① 生徒が安全・安心に活動ができる環境を整備する。</p> <p>-----</p> <p>学校努力目標（1）—② （2）—⑥⑧⑨</p>	<p>・環境整備においては、用務員やWSGと連携をしながら掃除計画の作成や行事前にチェックを行う。掃除道具や洗剤、教材などの管理や整理の担当を決め、長期休業時間を有効活用して取り組む。</p> <p>・体育的行事が円滑に実施されるよう計画し、気象環境等の状況に合わせて安全に実施できるようにする。</p>	3	<p>○夏季休業中に、コーンの把握と配置を調整することができた。計画的にあたご小中学部棟のワックスがけを行うことができた。来年度は、あたご高等部棟を行う予定。</p> <p>○中学部体育大会では、開会式を合同で実施することができた。来年度は1学期に高等部体育祭、2学期は小学部運動会の実施予定。</p> <p>○3月に総合グラウンドで、あたご高等部1、2年生のみらん・ラン・チャレンジを実施。</p>
<p>② 健康教育の充実を図る。</p> <p>-----</p> <p>学校努力目標（2）—⑥⑧⑨ （3）—②③</p>	<p>・毎日の健康観察及び検温を徹底し、早期に対応できるようにする。</p> <p>・児童生徒に向けたブラッシング指導、フッ化物洗口の実施を通して、歯や口の健康への意識を高める。</p> <p>・エピペン研修・心肺蘇生研修等、職員への研修の充実を図り、緊急時適切に対応できる校内体制を整える。</p>	3	<p>○毎日の健康観察及び検温を継続して行うことができた。</p> <p>○九州文化学園と連携をし、効果的なブラッシング指導を行うことができた。</p> <p>○今年度2回目の歯科検診を行い、必要に応じて受診を勧めることができた。未受診の生徒には引き続き、受診を勧めていく。</p>
<p>③ 食育に関する指導を充実し、児童生徒の健康増進と体力向上、さらに健康意識の向上を図る。</p> <p>-----</p> <p>学校努力目標（2）—⑧⑨ （3）—③</p>	<p>・食育の日（19日）には毎月担当を決めて児童生徒に資料を配付し、献立や食材について興味をもたせるようにする。</p> <p>・食育検討会を実施し、給食に関する現在の課題を把握し改善していけるようにする。</p> <p>・保護者及び職員に対して、配付物等で食育啓発ができるようにする</p>	3	<p>○10月には、給食説明会、見学会を実施し、家庭との連携を図ることができた。1月には給食集会を実施予定で、各学部準備を進めている。</p> <p>○食育の日の掲示物は、イラストや実物を提示し、各学部の係の先生が工夫をしながら取り組むことができた。</p> <p>○食のたよりを毎月発行することができた。</p>

上記記載外で、次年度に向けた改善策等

- ・体育的行事に関しては、他学部、他分掌部との場所の確保について連携が必要である。
- ・掃除道具、教材の整理をしっかりと行い、来年度に向けて準備を行っていく。
- ・食育については、今年度取り組んできたことは来年度も引き続き取り組んでいきたい。

令和7年度 部・分掌部評価シート（進路指導部）

4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
③ キャリアパスポートを確実に実施するとともに、個々の児童生徒に応じたキャリア発達に向けて「キャリア形成のための指導内容表」を見直す。	・キャリアパスポートの実施について年度初めと各学期末に取り組み時期と進捗状況の確認を行う。 ・分掌部会の際に「キャリア形成のための指導内容表」の確認作業の時間をとる。	3	○各学部キャリアパスポートについて計画通り進めることができた。 ▲キャリア形成のための指導内容表について各部で見直しを行い、それを基にキャリア教育全体計画を改善した。一方、指導内容表をどう活用するかの検討が不十分である。
学校努力目標（2）—⑦			
④ 児童・生徒、保護者、担任が卒業後の進路を意識できるように、進路先や卒業後の生活についての情報を提供する。	・現場実習の様子を校内で回覧及び掲示をしたり、校内行事の際に展示したりする。	3	○現場実習の事後学習で各実習先の情報についてまとめたものを高等部の生徒及び来校された保護者に見てもらえるよう掲示している。 ▲他学部への周知が十分にできなかった。 ○▲就労選択支援についての研修会を行い、保護者に新たな福祉サービスの情報を提供できた。職員に対する説明会を実施する必要がある。
学校努力目標（2）—⑤			
③ 現場実習や作業学習などの取組を外部へ情報発信することで、本校への理解・協力を促進する。	・進路だよりやホームページにて、現場実習及び作業学習の様子を発信する。	3	○進路だよりにて他学部の進路に関する情報を発信した。 ▲ホームページの更新を計画的にすすめることができなかった。→担当で情報を共有し合い、ホームページ掲載のスケジュールを整理する。
学校努力目標（2）—⑤⑩			

上記記載外で、次年度に向けた改善策等

小学部、中学部の児童生徒及び保護者へ進路に関する情報提供の場を設ける。

## 令和7年度 自立活動部・分掌部評価シート

4：十分達成できた    3：おおむね達成できた    2：あまり達成できなかった    1：達成できなかった

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
<p>① 目標検討会や評価会、研修のあり方等の工夫改善により、自立活動の指導力向上をめざす。</p>	<p>・公開授業や経年研の研究授業で、自立活動に積極的に取り組んでもらうよう研究部と共同で働き掛ける。</p> <p>・自立活動に関する自己評価シートを基に研修会の内容を企画・運営し、必要に応じて学習会を企画する。</p> <p>・目標検討会、評価会を通して、PDCAサイクルによる自立活動の授業実践を働き掛ける。また、統一した目標設定シートの様式で、全校での作成と検討を行う仕組みを定着させる。</p>	3	<p>○目標検討会や評価会において各学部で日程や時期を調整しながら実施することで、自立活動の指導におけるPDCAサイクルの定着ができてきた。</p> <p>○自立活動学習内容一覧表を見直し、修正追加を行った。</p> <p>○校内研究で自立活動の指導について取り組むことで、区分や項目、その内容について考える機会を設けることができた。</p> <p>○指導案の様式や記入の仕方など繰り返し周知したり、学部に応じた学習会を設定したりしたことで、昨年より自立活動の研究授業の実施回数が増え、授業研究会など自立活動に関する学びの場を設けることができた。</p>
<p>学校努力目標(2)―②</p>			<p>②保護者への自立活動の指導に関する理解啓発を進める。また、リハビリ見学など関係機関との連携の強化を図る。</p>
<p>学校努力目標(3)―③</p>			

上記記載外で、次年度に向けた改善策等

・学習内容一覧表の修正追加に合わせて、自立活動の指導における目標設定シートの新様式も作成する必要がある。

令和7年度 部・分掌部評価シート（教育支援部）

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
<p>①居住地校交流を円滑に実施できるよう交流実施マニュアル等を活用しながら、目的や手続きの流れ等について各担任と共通理解するとともに、交流の推進や内容の充実を図る。</p> <p>学校努力目標（3）—2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度始めに各市町教育委員会に実施要項や交流を実施する児童生徒、相手校の報告を行ったり、年度末に相手校と年間評価を共有したりするなどして、交流の推進を図る。</li> <li>・各担任が円滑に交流を進めることができるよう、交流マニュアルや必要な書類の作成例を示すとともに、全体説明会を5月上旬に実施する。</li> </ul>	3	<p>○小中学部56名の児童生徒が交流を希望した。インフルエンザなどの感染症流行により、急遽交流が延期や中止になったことが数件あったが、居住地校との直接交流を1～2回と手紙のやり取りなどの間接交流を複数回実施した。</p> <p>○今年度交流を実施した児童生徒のほとんどが次年度も希望しており、地域の友達との継続的な関係作りにつながっている。</p>
<p>②個別面談や教育支援会議（ケース会議）の企画・運営を行い、家庭や放課後等デイサービス、相談支援事業所等と連携した支援・指導の充実を図る。</p> <p>学校努力目標（3）—3</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者との個別面談（部門学部に応じて年2回以上）、放課後等デイサービスや相談支援事業所、保護者等との教育支援会議（必要に応じて）の企画・運営を行い、児童生徒の課題や情報を提供し合い、適切な支援方法を共有する。</li> <li>・面談や会議の結果を部主事や管理職と共有し、必要に応じて、出席者以外の教員への情報提供や共通理解を行う。</li> </ul>	3	<p>○部主事や担任、放課後等デイサービスや相談支援事業所、保護者等が一同に会し教育支援会議を実施した。諸課題の解決に向けて話し合いを行い、足並みをそろえて、指導・支援を行うことができた。</p> <p>○保護者との個別面談を各学部年2～3回実施したが、面談中の駐車場不足、担任や保護者の負担軽減を踏まえ、中学部の面談時期を変更したり、高等部の面談を一部希望制にしたりするなどの工夫を行った。</p>
<p>③学校と家庭との情報交換を密にし、必要に応じてスクールソーシャルワーカー（SSW）や医療、福祉機関と連携しながら、校内支援の推進を図る。</p> <p>学校努力目標（2）—8</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭との日々の連絡や面談等で情報交換を行い、児童生徒の実態や課題を把握する。</li> <li>・学校や家庭だけでは解決できない諸問題に対して、校内支援担当者が窓口になり、スクールソーシャルワーカーと（必要に応じて医療や福祉機関等とも）連携しながら解決を図る。</li> </ul>	3	<p>○スクールソーシャルワーカーと連携して児童生徒の悩みや家庭の諸問題に対応し、ショートステイの利用、障害手帳や福祉手当の習得などが進んだケースもあった。また、行政や関係機関と連携を図り、必要に応じて要対協を開くなどして諸課題の解決に向けて対応することができた。スクールソーシャルワーカーには、月1回来校してもらい、要対協や教育支援会議の出席、包括センターや市福祉課との連携など、臨機応変に対応してもらった。</p>

上記記載外で、次年度に向けた改善策等

①今年度から交流の実施方法が「支援籍制度」から変更（「支援籍制度」の廃止）となった。相手校と連携について、これまで県及び市教育委員会をとおして行っていたものを直接行うようになったことで、不都合なことがいくつか挙がった。今年度中に交流マニュアルの見直しやメールを使用した相手校との連携の検討などの改善を行う。

令和7年度 部・分掌部評価シート（地域支援部）

4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
①各地域の連絡協議会において、教育委員会や関係機関と連携を取りながら、地域課題に応じた取組や研修会の企画運営を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年度の研修会の反省、アンケート結果や実務者会での意見をもとに、地域課題を把握し、今年度の重点的な課題の取組を設定する。</li> <li>教育委員会や実務者と、実務者会の取組や全体研修会内容、方法について協議し、役割分担を行いながら、会の運営・取組を行う。</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務局になっている佐世保市、佐々町について、重点内容に対する今年度の取組を事務局で示し、実務者の意見を反映させながら事業に取り組むことができた。</li> <li>佐世保市は、全体研修会を市教育センターと共催し、連携をとった会の運営ができた。</li> <li>佐世保市、佐々町ともに事務局の在り方について協議し、佐々町は令和9年度から事務局を教育委員会に完全移管予定。佐世保市は令和8年度から教育委員会が事務局に入り、より連携した運営を行う予定である。</li> </ul>
学校努力目標（3）—①			
②講義・研修への参加や部内での学習会をとおして専門的知識を高め、地域支援や情報発信に生かす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々に必要な講義・研修を受講し、専門的知識を深める。</li> <li>相談前後の意見交換、部内の自主学習会での協議等をとおして、様々な視点での見方や考え方を深め、地域への助言や支援に生かす。</li> <li>地域への学習会や教育相談会を計画・実施する。事前に質問や相談内容を聞き取り、ニーズに応じた情報の提供や助言を行う。</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の小・中学校への学習会を年3回実施。参加者からのアンケートに回答する形で内容を構成し、助言や情報提供を行った。学習会内容をホームページに掲載・発信した。学習会の後に、教育相談につながったものもある。</li> <li>分校・分教室を含めた情報・意見交換会を2回実施。また、部内で夏季教育相談の相談内容や対応について共有・意見交換を設け、お互いの知識や考えを深める機会にした。</li> </ul>
学校努力目標（3）—①			

上記記載外で、次年度に向けた改善策等

- 佐世保市、佐々町について、教育委員会や市教育センターと連携し、コーディネーターの役割や業務等に関する研修支援を行う予定である。
- 今年度、特別支援学級からの相談が増えた。次年度、研修支援とともに、他の分掌部の協力を得ながら、自立活動や進路選択、ICT機器の活用などに関する情報の発信・提供に努める。

令和7年度 部・分掌部評価シート（情報教育部）

4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
①定期的に職員向けの研修会を行い、ICT 機器やアプリ等の使い方を知らせ、授業で活用できる人材を増やす。	・ICT 研を年2回実施し、ICT 活用データベースの紹介等をして一人一台端末の活用の促進を図る。 ・アプリ配信の迅速な対応を心がける。	4	○ICT 研1回目を8月に実施、2回目を1月に実施。 ○スムーズなアプリ配信ができ、今年度は、生成 AI を活用したアプリ CANVA やサービス Microsoft Copilot 等も使用できるようになったので、ICT の更なる活用が期待できる。 ○今年度も ICT 活用データベース事例3件提出。
学校努力目標（2）—③			
②情報機器に関するマニュアルを作成したり、情報関係のルールづくりをおこなったりすることで情報教育の環境を整える。	・昨年度作成したマニュアルの見直しや改訂を行う。 ・先生方の困り感を元に、新規マニュアルを作成する。 ・情報機器に写真や使用手順を貼り付け、正しい管理や使用方法を伝達する。	3	○マニュアルの改訂や新規作成に合わせて、共有フォルダ内のマニュアルフォルダについて、伝達できた。活用を促し、問い合わせも減ってきた。 ○使用手順の貼り付けについて、現在部員全員で取り掛かっている。
学校努力目標（2）—③			
③ポータルサイトや Teams を活用した情報発信を通して、情報モラルに関する注意喚起をしたり、セキュリティポリシーに関する研修を設定したりして、情報モラルの意識を高める。	・情報モラルに関する研修に参加し、校内で伝達研修を実施する。 ・セキュリティポリシーの改訂について、研修を実施する。 ・セキュリティ事案等の情報をより自分事と捉えやすくしてから注意喚起をする。	3	▲ICT 教育支援センターによる iPad の初期化対応が1件、PC の破損が1件あった。事故等について今後も事例共有し、再発防止に努める。 ○セキュリティポリシーの改訂については、2回目の ICT 研にて伝達予定。
学校努力目標（2）—④			

上記記載外で、次年度に向けた改善策等

更なる iPad の活用に向け、次年度外部講師による研修を計画していきたい。

令和7年度 部・分掌部評価シート（文化部） 後期

4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
① 文化的行事の企画、運営を行い、児童生徒が生き生きと自己表現できる環境を作る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等部文化祭や小学部きらめきフェスタ、中学部を対象としたアウトリーチコンサートを計画し、運営していく。</li> <li>・文化的行事の後、2週間以内に児童生徒の様子をホームページで発信する。</li> </ul>	3	<p>○きらめきフェスタ(小学部)、高等部文化祭などの文化的行事の計画、運営を行った。</p> <p>▲文化祭と体育祭を隔年で実施することになったが、体育館などの使用に関して、さらに調整が難しくなった。舞台設置については、経験不足などの理由で設置が大変だった。</p> <p>○ホームページでピース文化祭の展示の様子を発信することができた。今後も定期的に情報発信していく。</p>
学校努力目標（3）—③			
② 児童生徒の作品など学習活動の成果を総合的に生かし、発表の場を設ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休み作品展では、生徒、保護者、関係者が見学しやすいように作品を設置する。</li> <li>・校内の掲示板を活用し、学習活動の成果や作品を発表する場を設ける。</li> </ul>	3	<p>○前期同様、各学部、学習活動で制作した作品の展示や校外作品展への出品などを通して、学習の成果発表することができた。</p> <p>▲高等部文化祭に関しては時間が短く、展示作品を十分鑑賞する時間がなかったため、今後工夫が必要である。</p>
学校努力目標（2）—⑥			
③ 図書の整備に努め、児童生徒が学びやすく、教師が授業を行いやすい環境を作る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蔵書点検を行い、蔵書の管理や整備に努める。</li> <li>・児童生徒や職員から新刊本の購入希望を募り、購入する。</li> <li>・委員会活動を通して、児童生徒が主体的に活動し、お話しや図書の紹介を行う。</li> <li>・公共図書館から本を借用する方法を確定し、学習活動で活用できるようにする。</li> </ul>	3	<p>○蔵書点検は短時間で終わらせることができた。</p> <p>▲蔵書の管理が課題である。</p> <p>▲新刊本の購入・紹介について、工夫を行い、周知し、12月に希望があり、購入できなかった本については、来年度の前期に引き継ぐ。</p>
学校努力目標（2）—⑥			

上記記載外で、次年度に向けた改善策等

- ・文化祭時期の体育館などの使用に関して、保体部と連携を図りながら調整する。
- ・次年度のきらめきフェスタの舞台準備を全校で取り組めないか検討する。
- ・ホームページの更新については、次年度の分掌部会で周知し、適宜更新していく。
- ・蔵書の除籍や寄贈本の廃棄について今後検討し、新刊本の購入・紹介について周知の仕方を工夫する。
- ・図書購入に関しては、予算が足りず、12月購入希望の約半分を次年度前期に引き継ぐ。

令和7年度 部・分掌部評価シート（安全管理部）

4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
①非常時に備えた日頃からの危機管理意識の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練（地震、火災）や不審者対応研修、災害時の引き渡し訓練及び待機研修、児童生徒搜索訓練などを実施する。</li> <li>・学校安全管理マニュアルを職員に周知し、必要に応じて改訂する。</li> <li>・生徒及び職員の個人用非常袋の確認を行う。</li> </ul>	3	<p>○▲学校の実情に応じた訓練等を計画・実施しながら、学校安全マニュアルの見直しを図っている。アンケート等に出てきた意見を集約し、管理職と協議しながら進めたい。</p> <p>○11月に行った短時間の地震想定訓練のやり方も、今後の訓練の一つのアイデアとなった。</p> <p>○▲個人用非常袋の準備及び中身の確認等について、既存の学習の機会を活用しながら、取り組みたい。保護者及び私たち職員の意識も高めながら進めたい。</p> <p>▲生活生徒指導部との業務のすみ分けや協働する部分などを検討したい。</p>
学校努力目標（1）—④			
②安全点検の徹底を図り、児童生徒及び職員が安全・安心に活動ができる環境を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の安全点検表の確認と報告を徹底すると共に、対応状況を把握し、進捗状況を共有しながら取り組む。</li> <li>・日頃の職員や生徒の気付きの声を拾い対応できる体制を確認する。</li> </ul>	3	<p>○▲安全点検はほぼ行っていた。ただ、不備等があった箇所について、×印の記載だけで終わらず、別途報告書への記入までがセットであることを再度周知したい。（報告書は起案もあるため、期日厳守も含め。）</p>
学校努力目標（1）—②			
③外部機関や保護者との連携及び協働を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と協働した訓練等を実施するとともに、地域の方や関係各所にも必要に応じて情報共有する。</li> <li>・HP等を活用し、取組状況について発信する。</li> </ul>	3	<p>○初の試みとして、保護者と協働した「保護者引き渡し訓練」を実施。今回の経験や気付きを集約して、職員、保護者、児童生徒の危機管理意識につなげ、より良い避難の在り方に寄与していきたい。</p>
学校努力目標（1）—④			

上記記載外で、次年度に向けた改善策等

- ・児童生徒学校待機に関する研修の計画・立案・実施
- ・引き渡しカードや搜索カードの様式の調整
- ・備蓄品の管理状況の把握及び非常袋持参の理解啓発